

別表1 安全キャビネット以外の装置を用いる場合のリスク評価ポイントの例

病原体等を使用した動物の取扱いを安全キャビネットで行う場合とそれ以外のエアロゾル対策装置で行う場合について、追加的リスク低減策も含めた総合的なリスクを比較し、よりリスクが低い方を採用すること。安全キャビネット以外のエアロゾル対策装置を用いる場合のリスク評価のポイント及びリスク低減策を以下に例示する。

項目	回答・選択肢	リスク評価のポイント	リスク低減策	該当項目*
1. 病原体等の性質				
感染経路	経口／経皮／経粘膜／呼吸器	感染経路に対して適切なリスク低減策が選択されているか？	PPEの強化、適正なエアロゾル対策装置の使用	①
消毒・除染	易／難／不明	消毒剤・除染剤はその病原体に有効であり、かつ適切な消毒・除染方法が準備されているか？	有効な消毒剤・除染剤の準備、適切な消毒・除染方法の準備 事前に消毒剤・除染剤の有効性を評価。	①、②
2. 実験者				
実験操作のスキル	良／可／不可	実験操作の理解、スキル、経験は信頼に足るか？	追加教育訓練	①、②
作業者の健康状態	ワクチン接種の有無／妊娠の有無／免疫抑制等の服薬の有無	ばく露時に作業者の健康被害または2次被害が重大となる可能性があるか？ 心身共に健康で安全に実験に従事することが可能か？	ワクチン接種の推奨 作業従事の回避、作業者の交替	①
3. 実験の内容（安全キャビネット以外のエアロゾル対策装置で行う実験内容の特定）				
動物種	例）サル	その大きさ、必要な機材、実験に必要な人数、実験手技などから当該動物種を安全キャビネットで安全に取扱うことが可能か？	安全キャビネットで取扱いができないため、適正なエアロゾル対策装置で取扱う 当該装置を用いた適切な運用方法の準備	①
使用場所	例）プッシュプル型の換気装置	当該装置の性能設計を理解しているか？ 安全キャビネットと同等以上に容易に消毒・除染ができるか？ 実際の実験室環境において気流制御（風速や風向等）が正しく機能しているか？ 定期的に性能点検されているか？それが記録されているか？	使用する装置の性能の把握 汚染時の装置の消毒・除染方法の準備 定期的な性能点検の実施	②
作業内容	接種／健康管理／観察／採材／解剖など	作業時の病原体等漏出の有無（固体、液体、飛沫、エアロゾル） ばく露、漏出時の対策が用意されているか？ 実験者の作業負荷が検討されているか？ 動物取扱い時の逸走防止対策がなされているか？	PPE強化策、実験室内外への漏出防止措置 低リスクな作業方法への変更 ばく露、漏出時の対策の準備 安全に実験を行うために必要な人員の確保 事前の逸走防止対策、逸走時の対応や必要な道具等の準備	①、②
実験室の封じ込め性能	差圧制御 入退室制限 HEPAフィルター	実験室内の気流方向、実験室差圧、扉のインターロック制御は適正か？ HEPAフィルターの性能は維持されているか？ 実験室内全体の除染ができるか？	実験室封じ込め性能の把握・定期的な点検の実施 燻蒸等による実験室除染の方法の確立	③

* ①実験者への病原体のばく露 ②実験室内への病原体の漏出を避ける方策 ③実験室外への病原体の漏出を避ける方策